

『経過表』を用いた婦人科手術前オリエンテーションの効果

尾形 麗子, 神田 夏子, 菅生 智子
増子 尚美, 高橋 美代子

はじめに

インフォームド・コンセント（以下I.C.とする）を中心とした患者の権利に関する人々の意識が高まっている¹⁾。

I.C.における看護婦の役割として、医師の治療方針に関する補足説明や入院、治療に伴う日常生活の変化等の説明を十分に行い、患者が納得して、治療が受けられるよう援助することが求められている。

当院の婦人科病棟では、週平均6件の手術が行われており、子宮筋腫や良性の卵巣腫瘍の場合、手術前後の経過はだいたい一定している。そのため、術前オリエンテーションはルーチン化し、術前処置、必要物品については紙面で、術後の経過については口頭で説明を行っていた。

しかし、術前オリエンテーションに関して「詳細部分の説明はスタッフによって違う」「手術前後の経過が理解しにくい」といった意見が、患者から聞かれることがあった。このことから、手術前後の状態をイメージできないまま、手術を受ける患者がいるのではないかと考え、従来の術前オリエンテーションを再検討することにした。

今回、婦人科手術を受ける患者用の『経過表』を作成し、手術前後の経過をイメージするのに有効な方法であるかを明らかにする為に術前オリエンテーションを実施したので、その効果を報告する。

研究対象及び方法

1. 研究対象

1998年8月～10月に、婦人科手術を受け、術前オリエンテーションと術後の面接に協力を得られ

た38名。

年齢は、10代1名、20代5名、30代2名、40代17名、50代9名、60代3名、70代1名であった。

疾患は、子宮筋腫18名、卵巣腫瘍12名、その他8名であった。

2. 研究方法

1) 『経過表』の作成

婦人科の代表的な手術である腹式単純子宮全摘除術の経過に基づき、ルーチン化されている手術前後の経過について、『経過表』を作成した（資料1参照）。

内山²⁾、東³⁾らの文献を参考にし、横に時間経過を、縦に治療と処置、手術後に予測される症状と対処、日常生活行動の変化と援助を設定し、表にした。

作成にあたり、手術を終えた患者から、手術前に知っておきたかったことについて、意見を聞いた。活動、食事、清潔に関する意見が多かったため、それらの項目を詳しく『経過表』に記述した。

また、患者が理解しやすいように、専門用語はできるだけ用いず、絵を多く取り入れた。

2) 『経過表』を用いた術前オリエンテーションの実施

疾患や術式に関する医師からの説明の後、看護者が『経過表』を用いて、術前オリエンテーションを実施した。実施する看護者は、一方的な話にならないように、患者の反応をよく観察し、患者の疑問点を解決するよう努めた。

3) 『経過表』を用いた術前オリエンテーションの評価

患者の状態が安定した術後1週間前後に、質問紙（資料2参照）を用いて、面接を実施した。面接は、その患者に説明を行わなかった看護者が実施した。質問紙の内容は、以下3点である。

資料 2

『経過表』を用いた手術前オリエンテーションに関する調査質問紙

A.手術の前に『経過表』の説明を受けて、あなた（患者さん）がイメージした事と、実際に体験した事との違いについてお尋ねします。以下の1から6のそれぞれの時期について、あなたが思った事に近い記号を1つ選んで下さい。

- 1.手術前日に関する説明（麻酔、必要物品、剃毛、浣腸、絶飲食など）
 - a.すっかりイメージした通りだった
 - b.だいたいイメージした通りだった
 - c.少しイメージしたことで違っていた
 - d.全くイメージしたことで違っていた
 - 2.手術当日、手術前に関する説明（着替え、点滴、注射、搬送など）
 - a.すっかりイメージした通りだった
 - b.だいたいイメージした通りだった
 - c.少しイメージしたことで違っていた
 - d.全くイメージしたことで違っていた
 - 3.手術当日、手術後に関する説明（酸素吸入、点滴、フォーレ、絶飲食、体位変換、創痛など）
 - a.すっかりイメージした通りだった
 - b.だいたいイメージした通りだった
 - c.少しイメージしたことで違っていた
 - d.全くイメージしたことで違っていた
 - 4.手術1日目に関する説明（活動範囲、清拭、着替えなど）
 - a.すっかりイメージした通りだった
 - b.だいたいイメージした通りだった
 - c.少しイメージしたことで違っていた
 - d.全くイメージしたことで違っていた
 - 5.手術2日目に関する説明（活動範囲、着替え、排ガスなど）
 - a.すっかりイメージした通りだった
 - b.だいたいイメージした通りだった
 - c.少しイメージしたことで違っていた
 - d.全くイメージしたことで違っていた
 - 6.手術3～7日目に関する説明（活動範囲、食事など）
 - a.すっかりイメージした通りだった
 - b.だいたいイメージした通りだった
 - c.少しイメージしたことで違っていた
 - d.全くイメージしたことで違っていた
- B.『経過表』は見やすいものだったでしょうか、あてはまる記号を1つ選んで下さい。
- a.大変見やすかった
 - b.まあまあ見やすかった
 - c.見にくいところがあった
 - d.大変見にくかった
- C.『経過表』についての意見や感想があればお聞かせ下さい。

(1) 設問 A: 術前オリエンテーションを受けて、患者がイメージしたことと、患者が実際に体験したことの違いを、手術前後の経過毎に順序尺度を用いて、調査した。

(2) 設問 B: 『経過表』の見やすさを順序尺度を用いて、調査した。

(3) 設問 C: 患者の意見や感想を自由に述べてもらう。

設問 A, B の結果は、単純集計し、考察した。設問 C の結果は内容を整理し、考察した。

結 果

1. 設問 A

手術前日に関する説明に対し、「すっかりイメージした通り」と答えた者が26名(68%)、「だいたいイメージした通り」と答えた者が11名(29%)

で無回答が1名であった(図1)。

手術当日、手術前に関する説明に対し、「すっかりイメージした通り」と答えた者が30名(79%)、「だいたいイメージした通り」と答えた者が7名(18%)で、無回答が1名であった(図2)。

手術当日、手術後に関する説明に対し、「すっかりイメージした通り」と答えた者が17名(45%)、「だいたいイメージした通り」と答えた者が14名(37%)で、無回答は7名であった(図3)。

手術1日目に関する説明に対し、「すっかりイメージした通り」と答えた者が27名(72%)、「だいたいイメージした通り」と答えた者が7名(18%)、「少しイメージしたことで違う」と答えた者は2名(5%)、無回答は2名であった(図4)。

手術2日目に関する説明に対し、「すっかりイメージした通り」と答えた者が26名(68%)、「だ

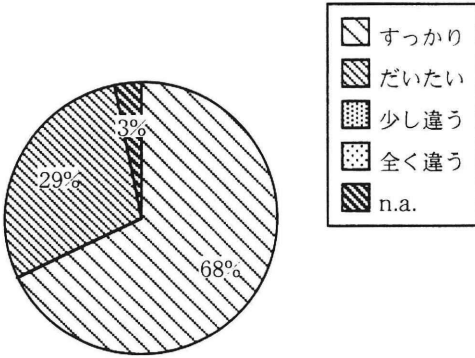


図1. 手術前日に関する説明

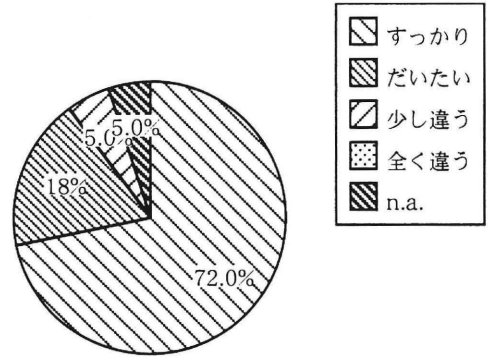


図4. 手術1日目に関する説明

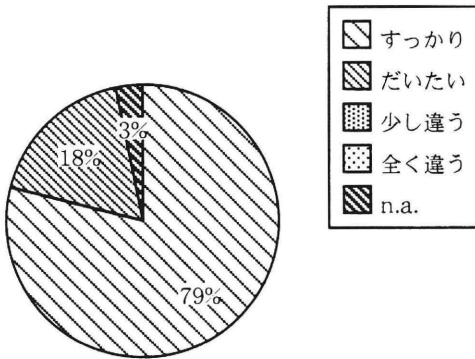


図2. 手術当日, 手術前に関する説明

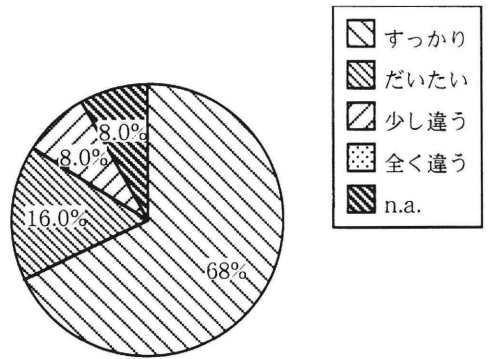


図5. 手術2日目に関する説明

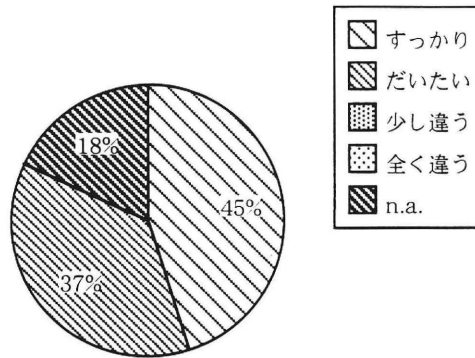


図3. 手術当日, 手術後に関する説明

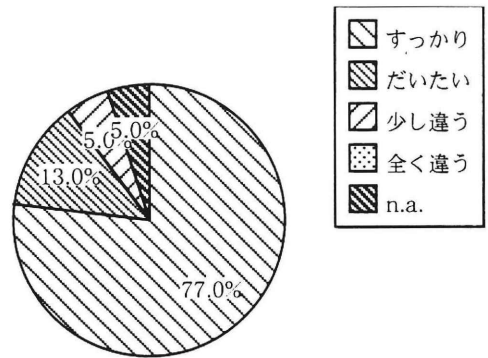


図6. 手術3~7日目に関する説明

「だいたいイメージした通り」と答えた者が6名(16%),「少しイメージしたことで違っていた」と答えた者は3名(8%),無回答は3名であった(図5)。

手術3~7日目に関する説明に対し「すっかりイメージした通り」と答えた者が29名(77%),「だいたいイメージした通り」と答えた者が5名

(13%),「少しイメージしたことで違っていた」と答えた者が2名(5%),無回答は2名であった(図6)。

2. 設問B

「大変見やすかった」と答えた者が29名(77%),「まあまあ見やすかった」と答えた者が8名

(20%)、無回答は1名であった。

3. 設問 C (一部抜粋)

- 前が見えるので、見通しがたてられる
- その日の目標を達成するように、積極的に体を動かした
- 絵がいっぱいで見やすかった
- 手術が恐くて(説明そのものを)覚えていなかった
- 『経過表』通りにいかないと、自分が悪いのではと思ってしまう

考 察

設問 A の結果をみると、それぞれの経過で、「すっかりイメージ通り」「だいたいイメージした通り」と答えた者の数を合わせると、8割以上であった。このことから、『経過表』を用いた術前オリエンテーションは、手術前後の経過をイメージしやすいものであったといえる。

設問 B の結果をみると、『経過表』の見やすさについては、37名(97%)が「大変見やすかった」または「まあまあ見やすかった」と答えていた。

以上のことから、『経過表』を用いた術前オリエンテーションは、婦人科手術を受ける患者が、手術前後の経過をイメージするのに有効な方法であることが明らかになった。

従来のオリエンテーションは、手術前日と当日の処置や必要物品の説明が中心で、使用した用紙には絵や図は書かれていなかった。患者は、説明を「聞く」という行為に加え、パンフレットなどを「見る」ことにより、説明が理解しやすくなるといわれている⁴⁾。今回の『経過表』では、経時的に、患者の知りたい内容を、一般的な言葉や絵を用いて表現したことにより、患者の理解を高めたと言える。

また、手術を受けるというストレスに対して、患者は問題中心型あるいは情動中心型の対処行動をとるといわれている。問題中心型の対処行動とは、手術を受けるという自分自身の問題に対し、積極的に情報を収集し、自分の目標を設定する行為である。

『経過表』による説明は、患者に必要な情報を与

えることになり、患者は自分が体験したことのない手術について、予測される状況をイメージすることができる。そして、患者は自分のできること、自分が行うべきことを認識し、自分の目標を立てることができたのではないか。患者の『経過表』に対する感想に、「見通しが立てられた」「積極的に体を動かした」といったものが多かった。患者が自分の目標を設定できると、回復に向けて意欲的になり、自己治癒力を高めることにもつながる。そして、患者は自分の目標を達成することで、満足感を得るのではないか。

しかし、説明そのものを覚えていない、手術が恐くて『経過表』はあまり役に立たなかったという患者がいた。これは、患者の理解力の不足、強度の不安などが原因として考えられる。また、『経過表』と自分の経過が違うことで、焦りや不安を感じた患者もいた。したがって、術前の『経過表』での説明や術後の経過に合わせた説明では、患者の心理状況や背景を十分把握し、個別性を考慮した説明が必要である。

ま と め

1. 『経過表』を用いた術前オリエンテーションは、婦人科手術を受ける患者が手術前後の経過をイメージするのに有効な方法である。
2. 『経過表』は、経時的に、患者の知りたい内容を、一般的な言葉や絵を用いて表現することで、患者の理解を高める。
3. 『経過表』を用いた説明では、患者の心理状況や背景を十分把握し、個別性を考慮する必要がある。

おわりに

今回作成した『経過表』は、現在行われている治療、看護のもとに作成した。クリティカルパスへの第1段階とも言える。今後は治療、看護の内容を検討し、さらに患者の I.C. を高める援助を提供したい。

謝 辞

最後になりましたが、研究に御協力下さった患者さん、病棟スタッフに感謝申し上げます。(なお本論文の要旨は、平成11年度日本看護協会北海道・東北地区看護研究学会で発表した。)

文 献

- 1) 小林洋二：患者の権利法。ナーシングトゥデイ 11：17, 1998
- 2) 内山真木子：白内障のケアガイドンス。ナーシングトゥデイ 5：72-78, 1998
- 3) 東美智子：看護記録およびインフォームドコンセントへのパス活用。ナーシングトゥデイ 5：120-127, 1998
- 4) Donald AB：患者教育のための実践的アプローチ(小島操子訳)，メディカルサイエンスインターナショナル，pp 84-85, 1986